

水俣から栃木にて学ぶ

—水俣病受難者の方々の体験と足尾鉍毒事件・原発震災—

日時

2013年7月3日(水)

10:30~12:00

場所

基盤教育B棟1122教室



司会 : 阪本公美子准教授

講師 : 永本賢二氏・松永幸一郎氏(水俣病受難者)、
加藤タケ子氏(ほっとはうす施設長)、ほっとはうす職員

コメンテーター: 高際澄雄教授、大栗行昭教授、高橋若菜准教授

対象 : 「社会開発入門」・「栃木県の歴史と文化」受講者、
他授業受講者、他学生・市民にも一般公開

主催 : 基盤教育「社会開発入門(アクティブ・ラーニング)」

共催 : 国際学部附属多文化公共圏センター、「栃木県の歴史と文化」、
「環境と国際社会」、「環境と国際協力」

背景と目的

原発震災から2年以上経過し、表層的な一部の問題は解決してきたものの、被害者・被災者・避難者の問題は解決しているとは言い難く、問題が複雑化・深層化しているともいえる。これを機に、戦後最悪の公害事件である水俣病の受難者の方々を招き、基盤教育授業「社会開発入門（アクティブ・ラーニング）」の一環として、本学及び群馬大学との共同で、学生とともに100年前の足尾銅山鉱毒事件の現場である渡良瀬遊水地・谷中村跡地、ならびに足尾銅山の訪問を企画した。100年前の公害事件、2年前の原発震災を経験している私たちは、水俣病受難者の方々から何を学べるか。足尾銅山鉱毒事件の現場訪問後に、水俣病受難者のみなさんにご講演頂く。

講師陣は、「水俣病から宝物を伝えるプログラム」を実践している、社会福祉法人さかえの杜ほっとはうすの3人。障がいを持つ方々の働く場であるほっとはうすに通い、水俣病の体験を小学生から大学生・社会人まで、積極的に伝えてきた水俣病受難者であるお二人—永本賢二さんと松永幸一郎さん—と、受難者さんと寄り添ってプログラムを通して、受難者の方々の立場と気持ちを汲み取って解説してきた施設長の加藤タケ子さん。

「社会開発」の授業の一環として開催するが、この機会に他の学生や多くの市民にも自らの問題として、学んで頂くため、多文化公共圏センターの共催の講演会として開催したい。



■会場アクセス：
宇都宮大学峰キャンパス
〒321-8505 宇都宮市峰町 350

■問い合わせ：
宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
TEL/FAX :028-649-5228 E-mail:tabunka-c@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

